

5. あとがき

欧州は EU 加盟国の拡大（15 カ国から 25 ヶ国）に伴い、設計や施工、材料に関する規格の策定を積極的に進めている。将来的には国際競争力を向上させる目的で、欧州規格を国際規格として提案して行く可能性がある。国際規格（ISO）は各国の代表者による多数決で決まるため、欧州規格を国際規格に提案した場合、成立する可能性が高い（ウィーン協定）。欧州の設計規格が国際規格に変わると、日本もその規格の使用を要求される（TBT 協定）。国内で計画されている構造物の設計において既存技術基準が適用されなくなるため、大きな混乱が生じる可能性がある。

一方、わが国の設計基準については、国際化とは直接関係なく、「性能規定化」および基準の「階層化」が検討されている。これらの検討は、基本的に設計段階における自由度を拡大することにより、新しい技術の適用性を向上させ、コストの縮減を図り、説明性を向上することを目途に行われている。その可能性は本報告書の連続合成鋼 2 主桁橋の試設計により確認できたものと思われる。この成果が鋼橋技術研究会の今後の活動の一助になれば幸甚である。

終わりに、日ごろ多忙な業務の中、熱心に部会活動にご協力いただいた委員の方々に心からのお礼を申し上げます。